

# 平成26年度 国語科教育にかかわる現状と課題

部長 中 林 郁 郎

## 1 国語科教育の動向

### 【上越地区】

上越市は明治小学校の寺島元子教諭が「アップとルーズ」を教材に国語の学力を高める提案を、妙高市は新井南小学校の保阪国馨教諭が「柿山伏」を教材に古典指導の在り方について提案を行った。糸魚川市は糸魚川小学校で三つの授業を公開し、言語活動に視点を置いた授業構成について、柏崎・刈羽は講師を招いて思考力の育成等の研究に取り組んだ。

### 【中越地区】

長岡・三島、加茂市、十日町・中魚沼では小中の連携強化を図るために、小・中学校の教員が合同で実践交流や授業研究会を行っている。「授業で学ぶ」ことを重点に挙げ、3回にわたって授業研究会を開催しているところもある。また、見附市の説明文教材を用いた演習を取り入れた研修、魚沼市の読み聞かせ実演や毛筆の指導・評価研修などは特徴的である。なお、南魚沼では「Web 配信集計システムを活用した授業改善」についての研修を行っている。

### 【下越地区】

講演会や師範授業等による研修を行った後、指導案検討会を経て研究授業を公開している郡市が多い。紫雲寺小学校の星野郁子教諭は「ちいちゃんのかげおくり」、保内小学校の高橋真徳教諭が「森へ」、中条小学校の津野航教諭は「やまなし・イーハトーブの夢」、上条小学校の田中昭洋教諭は「天気を予想する」を教材に授業を公開した。その他に、阿賀野市のレポート研修、五泉市の授業構想を練る演習などがある。

### 【新潟市】

単元を貫く言語活動を設定して6人の教諭が研究授業を行い、児童に読む力が身に付いたかどうか考察を行った。設定した言語活動は、「動物のひみつクイズ大会」「心に残った場面『語り』発表会」「お話いいなマイブックづくり」(以上下学年)、「作品の面白さリーフレットづくり」「いのちの地図づくり」「主人公の心の成長を描く本紹介リーフレットづくり」(以上上学年)などである。

## 2 国語科教育の課題

言語活動の一層の充実を図るために指導案検討会を設けてから授業研究会を実施する等、各郡市で研究方法に工夫が見られるようになった。今後も次の二点から指導力の向上を図る必要がある。

- ① 単元を貫く言語活動によってどのような力が付いたのか、その評価の観点や評価方法を研究し検証していくこと。
- ② 学びの連続性を踏まえた系統的な指導や具体的な授業構想について、実践交流や合同研修等を通して小中連携を進めること。